

第3章 権現山遺跡第30地点の調査

I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山といふ円形古墳」（安部1917）として紹介された。その後、1937年（昭和12年）に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。（山内1937）戦後は『埼玉縣史』（1951）、『古墳調査報告書－入間地区－』（1961）等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」（権現山北古墳群2M・3M）の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」（権現山古墳群2M）は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財（上福岡市）に指定された。資料上の初見は元禄12（1699）年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現 社地」の記載があり、塚の上には天保11（1840）年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群（11基）が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

1982年以来2023年4月現在30ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡第1・2・5～7・14・17地点へ変更した。



第57図 権現山遺跡の地形と調査区（1/4,000）



第58図 権現山遺跡遺構分布図 (1/2,000)

II 本調査に至る経過と概要

権現山遺跡第 30 地点の位置する「権現山史跡の森」では、2021 年からナラやカシの木が病原菌によって集団枯死する「ナラ枯れ」の被害を受けており、その対応のため 2021 年度～2023 年度の 3 か年をかけて被害木の伐採を実施した。2022 年 1 月、樹木伐採委託業者が作業を行うため敷地内に重機を入れたところ、地面が南北約 2m、東西約 1m の範囲で沈下、崩落した。確認したところ、これまでに把握されていない未確認の地下式坑と考えられた。2022 年 1 月 31 日付けで県指定文化財毀損届を提出、県文化資源課と協議の結果、現状のままではさらに崩落が進む危険性があること、また古墳群そのものの価値に影響を与えるため、速やかに記録保存のための発掘調査を実施することとなった。2023 年 2 月 2 日付けで埋蔵文化財発掘調査通知を提出した。

調査はナラ枯れ被害樹木の伐採が終了した 2023 年 3 月 6 日～30 日に実施した。崩落の危険性があるため、約 80～100cm ごとに半截・土層図作成・掘り上げを繰り返して完掘した。写真撮影・全測図作成・当記録保存を行った上で埋戻し、調査を終了した。埋戻しに際しては、県文化資源課と協議し、史跡に影響の少ない川砂を使用して人力で行った。なお、完全管理上段階に分けて掘削及び図面作成を行った。そのため、図面については概略である。

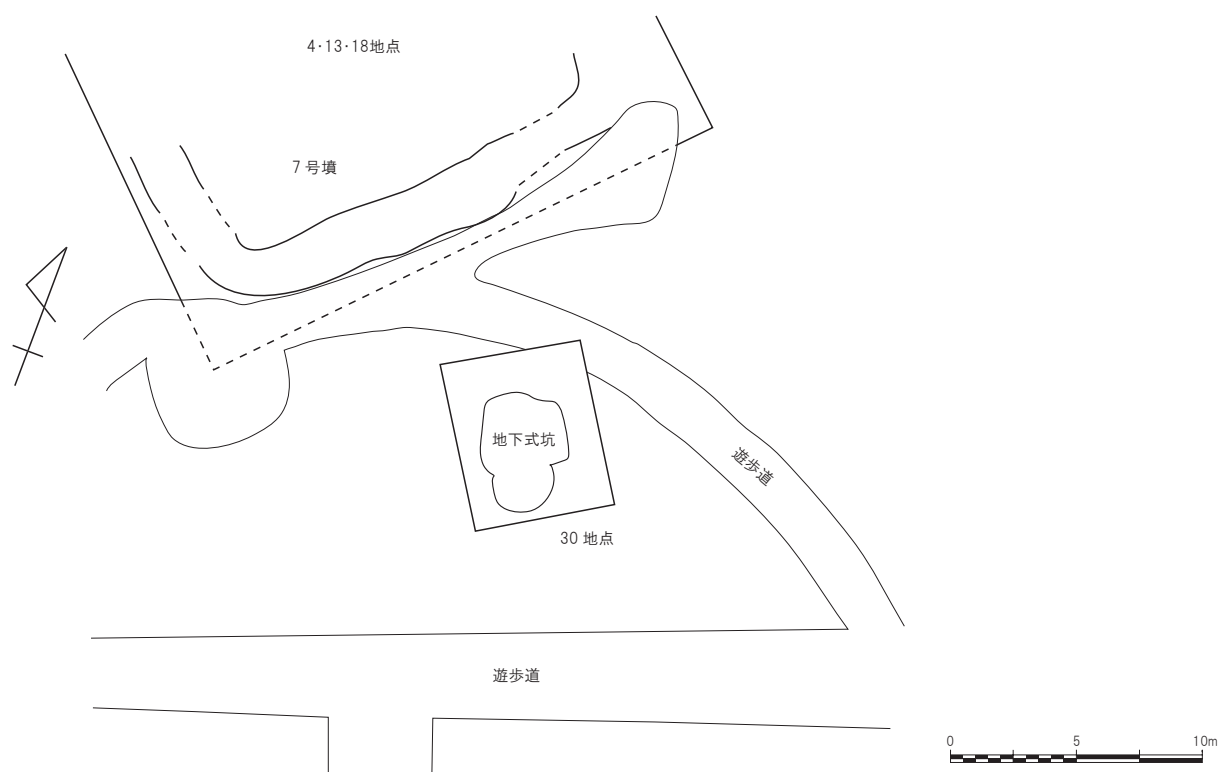
III 遺構と遺物

①地下式坑

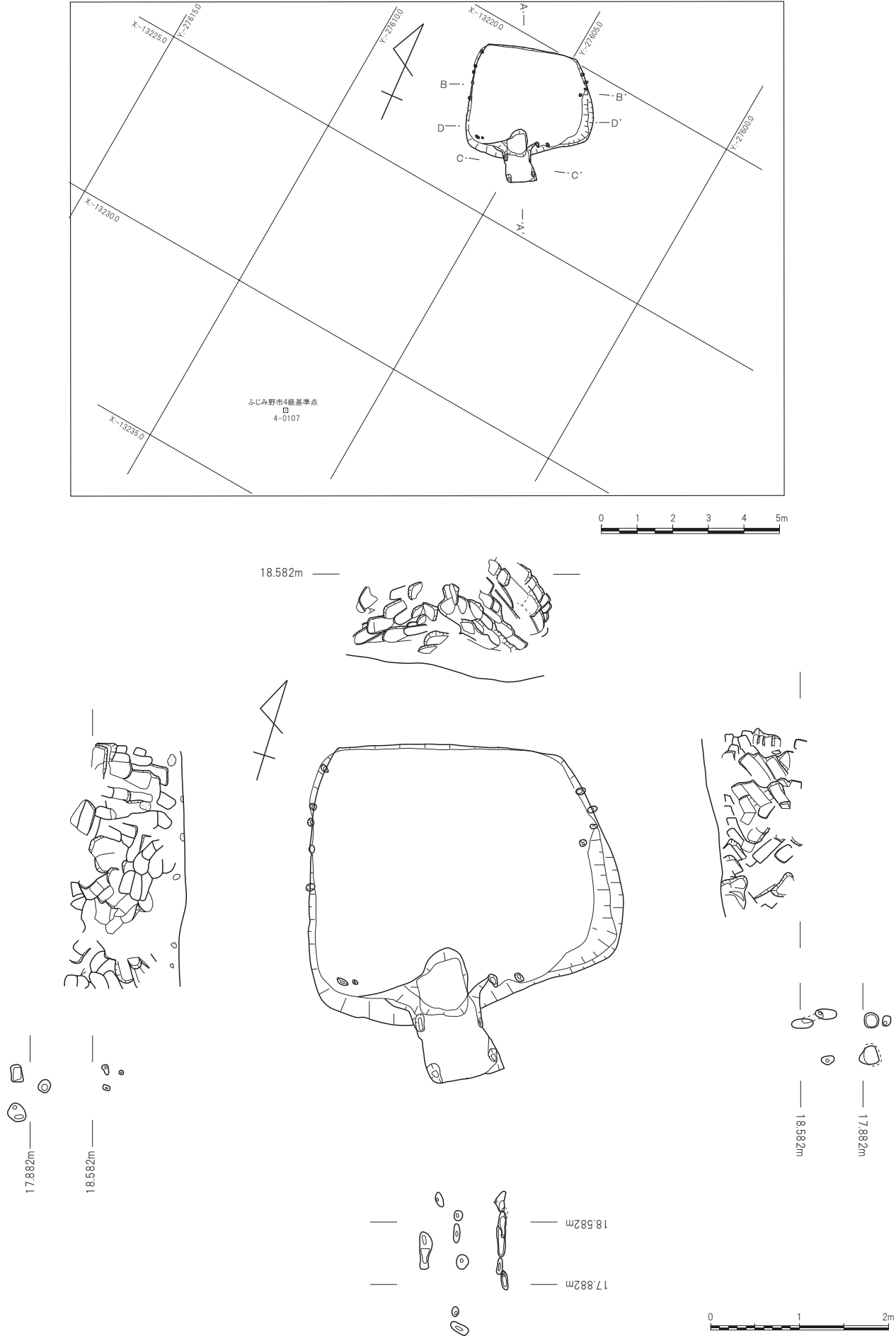
【位置】7 号墳の南東側、遊歩道に挟まれた部分に位置している。

【規模・形状】室は南北 320 cm、東西 340 cm を測り、地表から底面までの深さは最大で 350 cm である。竪穴を含めた長軸は 380 cm で、主軸は N-72°-W で北西を指向する。

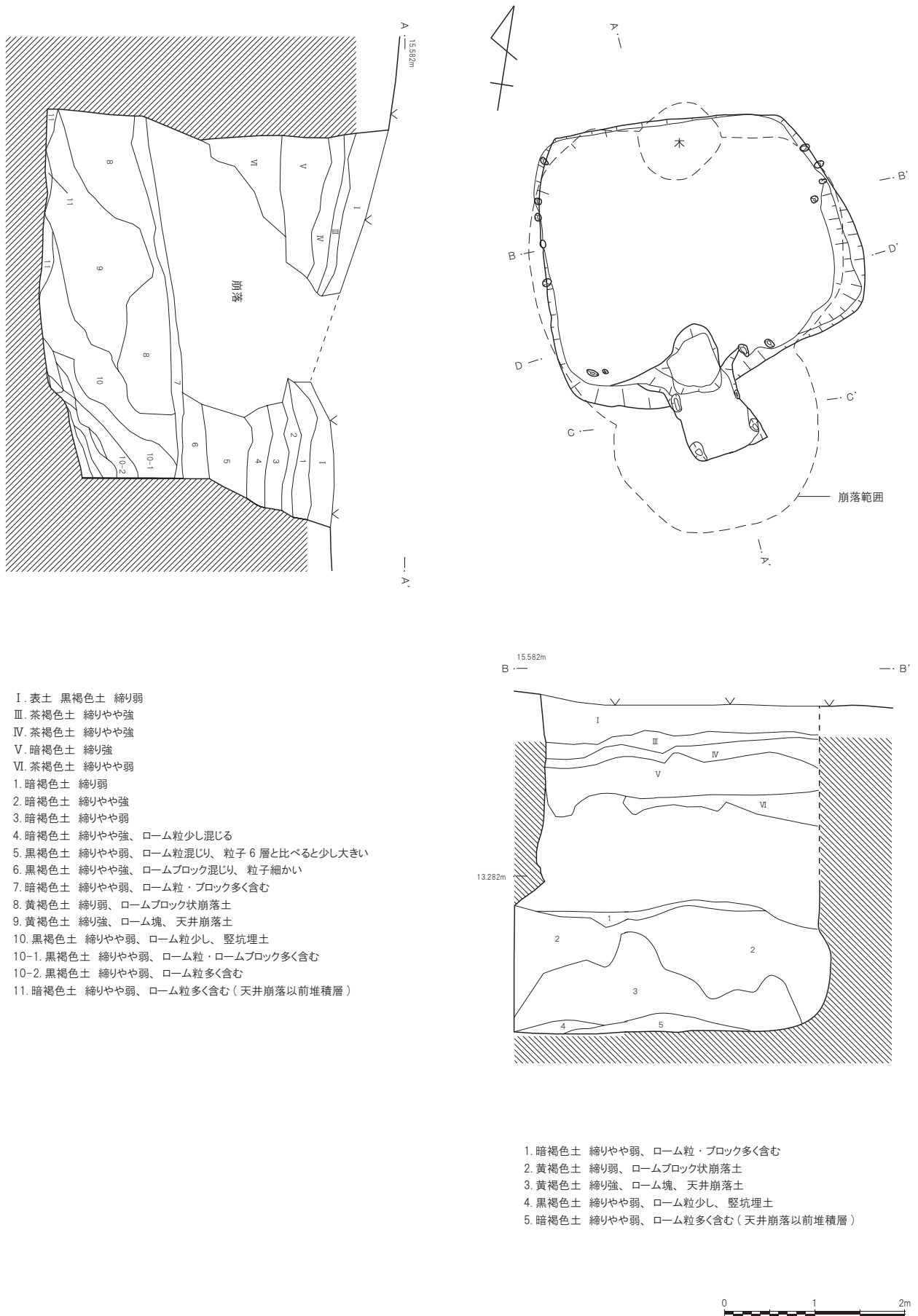
室は隅丸の不整形形で、その南側に竪抗を設けており「凸」状を呈する。竪坑の底面と地下室の底面は比高差が約 20 cm あり、段差が設けられている。天井は崩落していたため形態などは不明だが、側壁等の



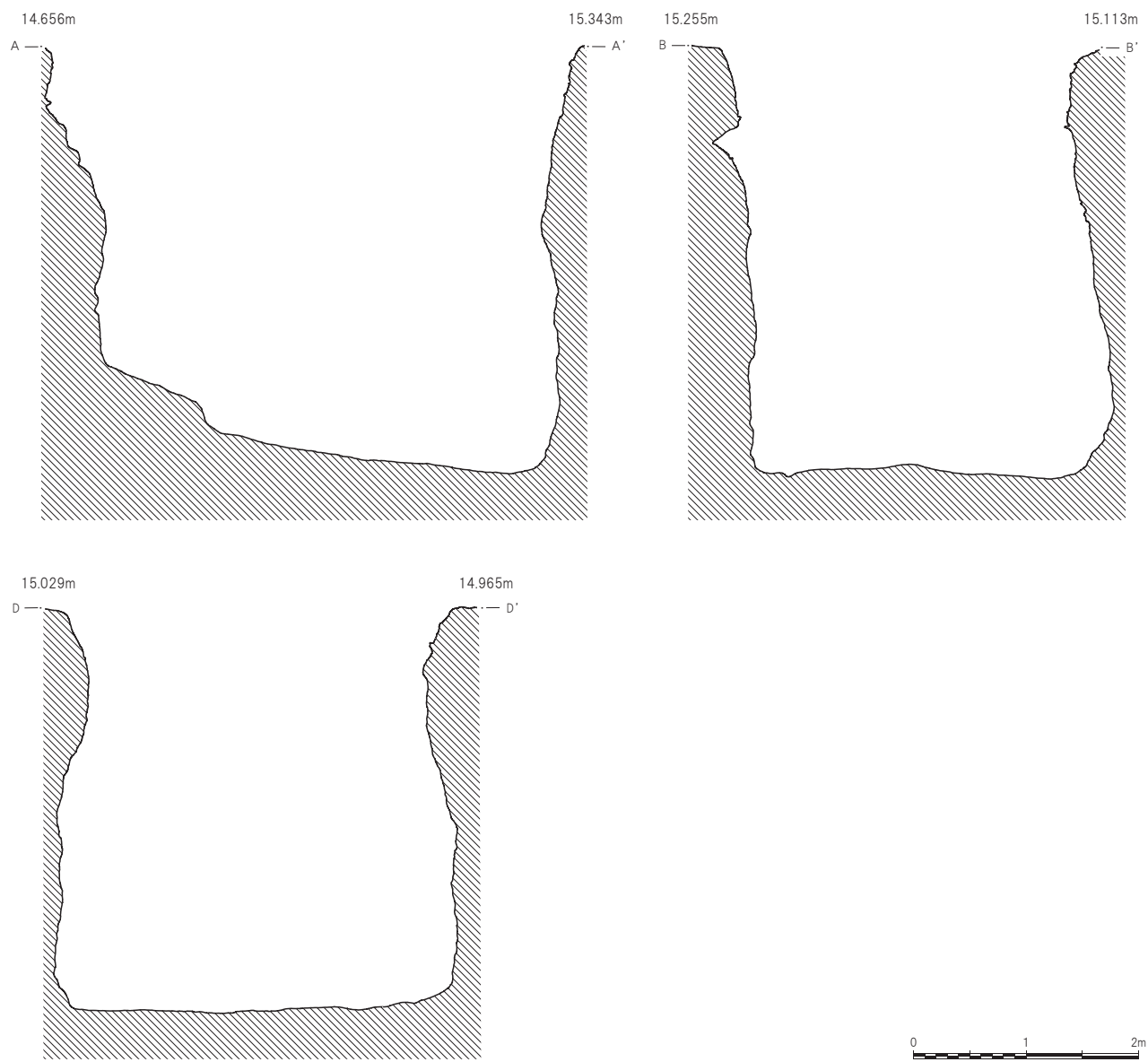
第 59 図 権現山遺跡第 30 地点遺構配置図 (1/300)



第 60 図 権現山遺跡第 30 地点地下式坑遺構配置図 (1/150)、平面図 (1/60)



第 61 図 権現山遺跡第 30 地点地下式坑① (1/60)



第 62 図 権現山遺跡第 30 地点地下式坑② (1/60)

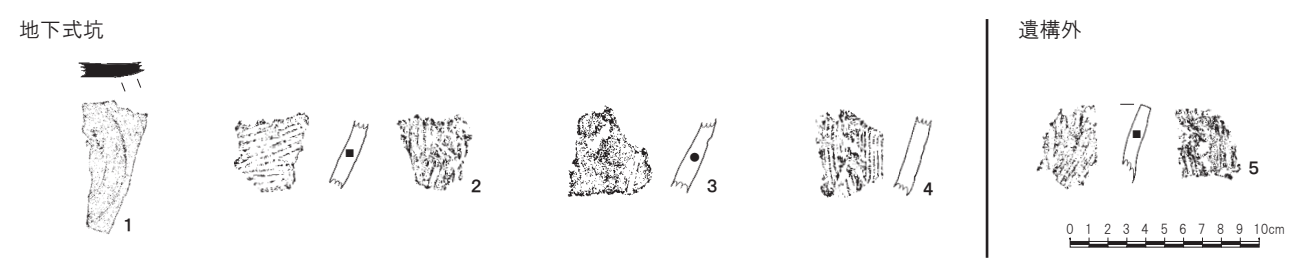
保存状態は良好であった。

【**竪坑**】地下式坑の南東側に幅 90 cm、深さ 285 cmで開けられている。底面の四隅に径 10 ～ 20 cm程度のピットが4ヶ所確認され、地下に降りる際に道具を掛けた跡と考えられる。地表からの深さ 350 cmの辺りには径約 2 cm、深さ 15 cm～ 25 cmのピットを両脇に2対検出した。その他に径 10 ～ 20cm の複数のピットが確認されているが、用途は不明である。

【**側壁**】東西と北側の壁には工具痕が残っている。いずれも幅 15 cm程で、25 ～ 30 cmの長さで削られている。工具跡は床面から 1.2 ～ 1.4 mの高さまで残っており、この高さは本来の地下室壁の高さであると思われる。

②出土遺物

地下式坑の覆土層から土器片と須恵器、遺構外から土器片が出土している。詳細は第 63 図及び第 31 表参照。



第 63 図 榎現山遺跡第 30 地点出土遺物（1/4）

第 31 表 榎現山遺跡第 30 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

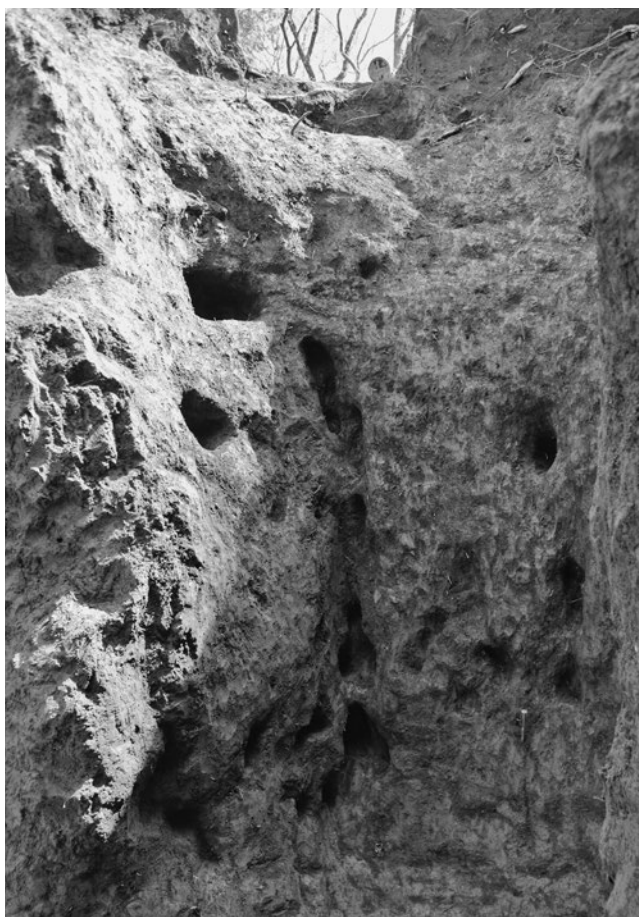
図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
1	地下式坑	須恵器 / 坏	—	—	—	—	丸底気味の底部付近の破片、全面回転ヘラ削りと思われ海綿骨針を含む、南比企産	8 世紀前半
2		縄文 / 深鉢	—	—	—	—	表裏条痕文、胎土に繊維を含む	縄文早期末
3		縄文 / 深鉢	—	—	—	—	無文を基調に傾位の沈線	縄文中期末～後期初頭
4		縄文 / 深鉢	—	—	—	—	縦位の櫛歯状工具による条線文	縄文中期・加曽利 E II
5	遺構外	縄文 / 深鉢	—	—	—	—	表裏条痕文	縄文早期末



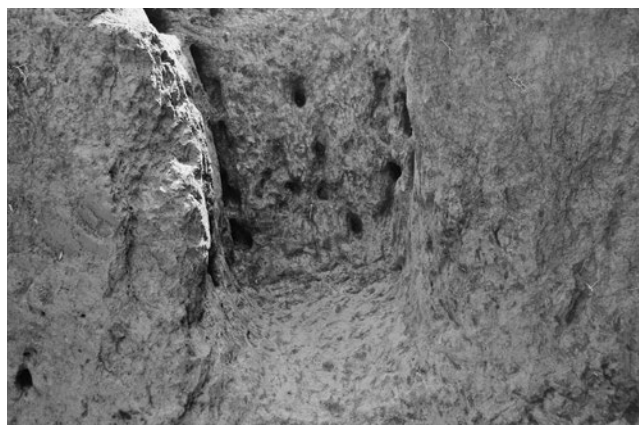
権現山遺跡第 30 地点地下式坑全景①



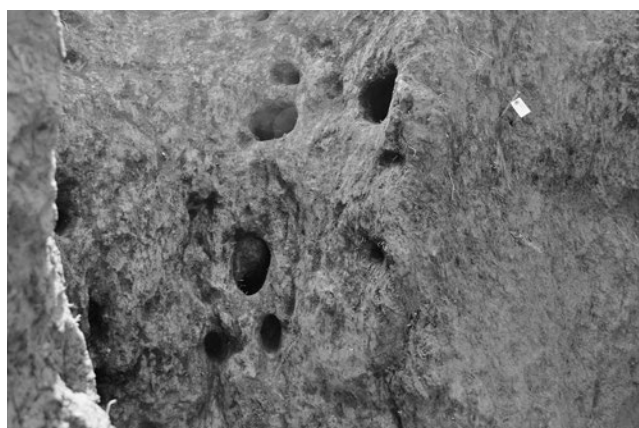
権現山遺跡第 30 地点地下式坑全景②



権現山遺跡第 30 地点地下式坑竪坑全景①



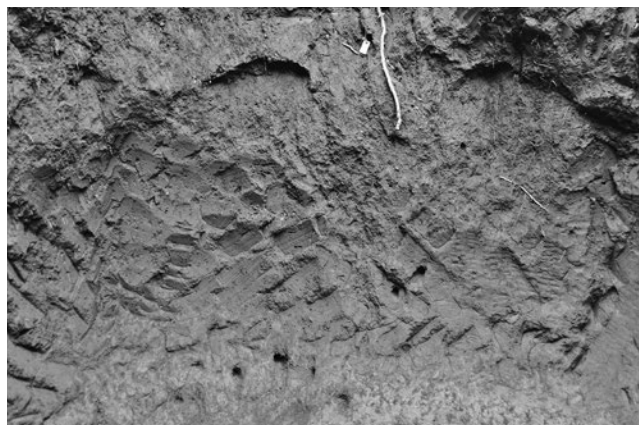
権現山遺跡第 30 地点地下式坑竪坑全景②



権現山遺跡第 30 地点地下式坑竪坑ピット



権現山遺跡第 30 地点地下式坑竪坑床面



権現山遺跡第 30 地点地下式坑東壁



権現山遺跡第 30 地点地下式坑北壁



権現山遺跡第 30 地点土層断面図



権現山遺跡第 30 地点全景



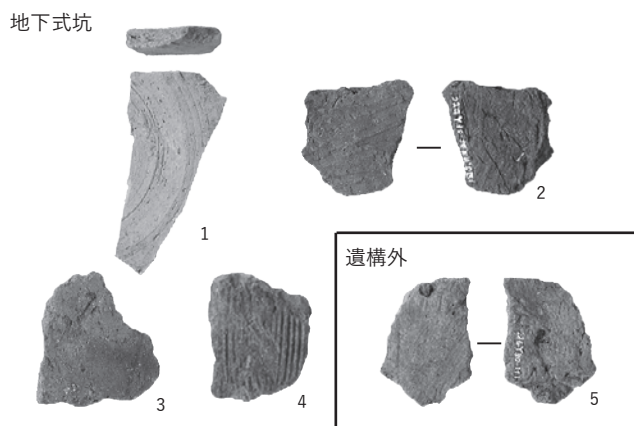
権現山遺跡第 30 地点調査風景①



権現山遺跡第 30 地点調査風景②



権現山遺跡第 30 地点調査風景③



権現山遺跡第 30 地点出土遺物

報告書抄録

書 名	市内遺跡群 28	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 29 集			
編集者	岡崎裕子	著 者	岡崎裕子・石川安司・平野絢			
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号			
発行日	2024 年 (令和 6 年) 3 月 29 日		TEL 049 (261) 2611			
所収遺跡 地点名	所 在 地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	m ²	調査担当者
	種別 / 主な時代 / 主な遺構 / 主な遺物					
	特記事項					
北野遺跡 第 57 地点	埼玉県ふじみ野市大原二丁目	112453	35°52′ 45″	20220411	8.8	分譲住宅
	2045-32	25-002	139°30′ 52″	20220411		岡崎裕子
散布地 / 時期不明 / 溝 1 条 / 遺物なし						
確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
北野遺跡 第 61 地点	埼玉県ふじみ野市北野 二丁目	112453	35°52′ 47″	20230807	73.7	分譲住宅
	2114-1	25-002	139°30′ 47″	20230907		岡崎裕子
散布地 / 時期不明 / 堀跡 1 本 / 遺物なし						
確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
ハケ遺跡 第 33 地点	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目	112453	35°53′ 05″	20230110	621	確認調査
	2061-1	25-005	139°31′ 23″	20230210		岡崎裕子
集落跡 / 時期不明 / 池 / 甕・石造物・縄文土器・陶磁器						
福岡河岸の回漕問屋である旧江戸屋の庭園にあった池の範囲を確認した。						
権現山遺跡 第 30 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 5	112453	35°52′ 49″	20230306	30	自然崩落
		25-007	139°31′ 39″	20230330		岡崎裕子
集落跡 / 時期不明 / 地下式坑 1 基 / 縄文土器・須恵器						
権現山遺跡ではこれまで見つかっていなかった地下式坑を確認した。						
滝遺跡 第 42 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目	112453	35°52′ 43″	20221107	33.4	分譲住宅
	1-9	25-008	139°31′ 35″	20221108		岡崎裕子
集落跡 / 古代 / 土坑・ピット・井戸 / 土師器・須恵器						
確認された遺構及び遺物は、当地域の集落形成とその範囲を知る上で貴重である。						
長宮遺跡 第 62 地点	埼玉県ふじみ野市長宮二丁目	112453	35°52′ 38″	20221129	111.3	分譲住宅
	1-21	25-009	139°31′ 43″	20230130		岡崎裕子
集落跡 / 時期不明 / 土坑・ピット・溝・井戸 / 土師器・須恵器・陶磁器・板碑片						
確認された遺構及び遺物は、当地域の集落形成及び土地利用を知る上で貴重である。						
松山遺跡 第 114 地点	埼玉県ふじみ野市築地三丁目	112453	35°52′ 22″	20221012	45.6	分譲住宅
	1-30・64・65・68	25-010	139°31′ 46″	20221014		岡崎裕子
集落跡 / 時期不明 / 古代住居跡 1 軒 / 須恵器・土師器・土錘・鉄製品						
確認された住居跡は、当地域の集落形成とその範囲を知る上で貴重である。						
松山遺跡 第 115 地点	埼玉県ふじみ野市仲二丁目 2-	112453	35°52′ 22″	20221223	24.3	個人住宅
	25	25-010	139°31′ 55″	20221223		岡崎裕子
集落跡 / 時期不明 / 堀跡 1 本 / 遺物なし						
確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
江川南遺跡 第 29 地点	埼玉県ふじみ野市東久保一丁目 182-7	112453	35°51′ 47″	20220912	16.26	分譲住宅
		30-007	139°30′ 42″	20220916		岡崎裕子
集落跡 / 時期不明 / 集石土坑 1 基・落とし穴 1 基・溝 1 条 / 焙烙・銭・陶磁器						
確認された遺構及び遺物は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
駒林遺跡 第 47 地点	埼玉県ふじみ野市駒林元町一丁目 4-9	112453	35°51′ 59″	20231016	69.4	宅地造成
		25-013	139°31′ 39″	20231122		岡崎裕子
堀跡 / 時期不明 / 堀跡 1 本 / 遺物なし						
確認された遺構は、当地域の土地利用を考える上で貴重である。						
駒林遺跡 第 48 地点	埼玉県ふじみ野市新駒林二丁目 315	112453	35°52′ 04″	20231211	303.78	分譲住宅
		25-013	139°31′ 32″	20240207		岡崎裕子
堀跡 / 時期不明 / 井戸 1 基 / 甕						
確認された遺構は、当地域の土地利用を考える上で貴重である。						